富岡製糸場総合研究センターだより

No. 7

（2021年9月発行）

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

女工館のフランス窓

見学コースから女工館２階のベランダを見上げると５つの窓が見えます。この内、向かって一番左にある窓を除く４つが建築当初の形式を残していると考えられています。

これらの窓は、いずれも外開きの「ガラリ戸」の内側に内開きのガラス戸を設ける二重構造になっています。

ガラリ戸とは幅の狭い横板を一定の傾斜をもたせて何枚も取り付けたもので、ブラインドのように直射日光や雨を防ぎながら風を通す役割があります。横板が重なる様子がかぶとの首回りを保護するための「しころ」に似ていることから「よろい戸」や「しころ戸」とも言います。

女工館の窓は、左右の扉が中央から両側へ開く観音開きで、床から直接立ち上がるフランス窓となっています。暑い時には内側のガラス戸を開けて風を入れることや直接ベランダに出て涼を取ることができます。

ヨーロッパの人びとがアメリカや東南アジアで、その土地の材料や風土と母国の建築と結合させた建築様式をコロニアル様式と言います。高温多湿のアジアで過ごすため、石積みの高い床の上に設けられたベランダとフランス窓はコロニアル様式の特徴をよく表しています。

◆発行◆

富岡市世界遺産観光部　富岡製糸場総合研究センター